

修士論文(要旨)

2011年7月

中国大連における情報サービス従事者の自律学習  
—言語学習戦略とリソースに関する調査—

指導 宮副ウォン裕子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

209J3902

張 世襲

## 目次

<b>第 1 章</b>	<b>はじめに</b>	
1.1	研究の背景 .....	1
1.2	研究の目的 .....	2
<b>第 2 章</b>	<b>先行研究の概観</b>	
2.1	自律学習に関する研究 .....	4
2.2	学習リソースに関する研究 .....	6
2.3	学習ストラテジーに関する研究 .....	8
<b>第 3 章</b>	<b>中国における日本語教育と日本語学習</b>	
3.1	中国における日本語教育の現状と問題 .....	13
3.2	大連市の大学における日本語教育 .....	15
3.3	日本語学習に利用できる学習リソース .....	16
<b>第 4 章</b>	<b>調査概要</b>	
4.1	調査方法 .....	18
4.2	調査対象者 .....	19
4.3	分析方法と理論的枠組み .....	20
<b>第 5 章</b>	<b>調査結果と分析</b>	
5.1	情報サービス従事者が使用している学習リソースに関する分析・考察 .....	23
5.2	情報サービス従事者が使用している言語学習ストラテジーに関する分析・考察 .....	31
5.3	情報サービス従事者の自律学習に関する分析・考察 .....	40
<b>第 6 章</b>	<b>総合的考察</b>	
6.1	考察 1－学習リソース .....	46
6.2	考察 2－学習ストラテジー .....	47
6.3	考察 3－自律学習 .....	47
<b>第 7 章</b>	<b>終わりに</b>	
7.1	本研究で明らかになったこと .....	50
7.2	自律的学習能力養成への提案 .....	50
7.3	本研究の限界 .....	51
7.4	今後の課題 .....	52

## 要旨

【キーワード】 情報サービス従事者 自律学習 学習リソース 階層的学習ストラテジー  
異文化理解

### 第1章・第2章・第3章

本研究では中国大連の情報サービス従事者を対象として実施した質問紙調査および半構造化インタビュー調査を通して、彼らが使用している学習リソースおよび学習ストラテジー（以下、学習ST）の実態を調査し、分析・考察を行った。研究課題は、自律学習を学習内容の管理および学習管理と捉え、自律学習達成のプロセスを究明し、自律学習の研究領域に新たな視座を提供することであった。

世界経済のグローバル化が進むとともに、日本国内外で業務を行う日本企業の情報サービスに対する需要が高まっている。この状況下、中国現地の大連などの沿海都市には、日本企業または日系企業に対して情報サービスを提供する会社が集中している。それらの情報サービス従事者にはハイレベルの日本語力を求めている（大前 2009）。例えば、コールセンターの仕事では日本人と電話により直接的に対応できる高いレベルの日本語力が要求されている。しかし、情報サービス従事者の日本語力はそれほど高くなく、企業が求めている能力との間に大きなギャップがある（大前、前掲書）。このような現状から、情報サービス従事者にとってどのように日本語力を向上させるかが重要な課題となっている。

分析の理論的枠組としては、リソースの分類、和田（2003）の学習リソースの機能および津田（2007）の学習STの階層的分類を援用した。Benson（2001）をもとに、自律学習を管理という視点から捉え、学習管理および学習内容の管理を考察した。最後に、研究結果を基に日本向け情報サービス会社における日本語人材および一般の日本語学習者の自律的学習能力の育成について提言をした。

### 第4章

研究課題の究明のため、2010年9月に中国遼寧省大連市の日本向け情報サービス企業A社の従事者58人の調査協力を得て質問紙調査を実施し、さらにそのうちの8人に半構造化インタビュー調査を行った。

### 第5章

調査の結果、体系的な日本語学習以外に、独学や自習での日本語リソースの活用によって、自分の周りのあらゆる日本語を使うチャンスを積極的に求め、日本語環境を作り出すことが言語使用者としての情報サービス従事者の日本語能力の維持や向上に役立つという結果を検証した。特に、情報サービス従事者にはリソースの使用を通して異文化理解を促進しようとする強い意欲が示された。

学習STに関しては、階層的枠組みに沿って分析・考察し、自律学習を全体的にみた結果、タスクレベルの認知、補償STがもっとも頻繁に使われていることがわかった。次に、物的リソース以外の人的リソースおよび複合的リソースを利用する際には、メタ（包括的）レベルおよび相互作用レベルの学習STの使用が多かった。加えて、留学あるいは滞日経験の有無という要素による相違点についても分析・考察結果が得られた。

- (1) 日本での留学経験がある学習者(C1、C7)は6種類の学習 ST をすべて使用している。
- (2) 滞日・留学期間の長さ按比例して日本にいる時間が長ければ、使用する学習 ST の種類が多くなるということが示唆された。
- (3) 滞日または留学経験がない場合、学習者の学習の意欲の差により学習 ST の使用には違いが見られる。

自律学習達成のプロセスについては、学習内容の管理は概説すると「何を勉強するか」で、素材を集中して用意するような段階となる。そこで、学習リソースの管理には「異文化理解の促進」「学習リソースの機能」「娯楽としての学習リソースの使用」「学習リソースの選択」「学習の意識化」等のカテゴリーが含まれる。そして学習管理のステップに学習 ST の活用を通じて学習内容の理解を深め、それに関する考えを広げる。学習管理は「どのように勉強するか」のような方法論的なものであり、自律学習へと航行する船が設定針路方向に向かって、予定コースからはずれずに行かれるように極めて大きな役割を果たしている。その次に、学習管理と学習内容の管理の再編成が実行され、新たな自律学習に導く。上で提示した「学習内容の管理」「学習管理」「学習管理及び学習内容の管理の再編成」の連続的なステップが完結し次第、結果としては自律した言語使用者が育成されることになる。

## 第6章・第7章

自律的学習能力養成への提案としては、まず教師の役割が重要視されるべきである。次に、日本で修士や博士の学位を取得して帰国した教師の定着、および現職教師に、体系的かつ定期的な研修活動を通して、最新のリソースの利用法を学ぶことを提案したい。中国の大学においては、自律的な学習者の育成のために、日本語学習リソースセンターの設置が望まれる。最後に、日本語教育の現場では学習 ST の指導の必要性がより認識され、学習 ST の指導を授業に体系的に取り入れることが必要であると思われる。

## 主要参考文献

- 青木直子(2005)「自律学習」日本語教育学会編『新版日本語教育事典』大修館書店 pp.773-774
- 梅田康子(2005)「学習者の自律性を重視した日本語教育コースにおける教師の役割—学部留学生に対する自律的な学習コース展開の可能性を探る—」『言語と文化』12 愛知大学語学教育研究室 pp.59-77
- 大前智文(2009)「大連 BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)産業の現状と課題」『名城論叢』10(1)名城大学経済・経営学会 pp.193-204
- 岡部真理子・石井恵理子・下平菜穂・富谷玲子(2003)「学習リソースの再検討:日本語学習の多様性を読み解くためのフレームワーク作りに向けて」第2回日本言語政策学会研究発表会(資料) 日本言語政策学会
- 国立国語研究所(2006)『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究—海外調査の成果と展望』国立国語研究所日本語教育センター
- 田中望・斎藤里美(1993)『日本語教育の理論と実際』大修館書店
- 大学英語教育学会学習ストラテジー研究会(2006)『英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック』大修館書店
- 張文麗(2010)「ドラマを素材にした Form-focused Instruction の効果—暗示的知識と明示的知識の測定を通して—」『日本言語文化研究会論集』6 日本言語文化研究会 pp.51-67
- 津田ひろみ(2007)「言語学習ストラテジーに関する階層性について:Oxford(1990)の批判的考察」『異文化コミュニケーション論集』5 立教大学 pp.95-106
- トムソン木下千尋(1997)「海外の日本語教育におけるリソースの活用」『世界の日本語教育』7 pp.17-29
- 藤井みゆき(2008)「視聴覚メディアを用いた教室活動の有効性」『同志社大学日本語・日本文化研究』6 同志社大学日本語・日本文化教育センター pp.46-58
- 宮崎里司(2003)「学習ストラテジー研究再考:理論、方法論、応用の観点から」『早稲田大学日本語教育研究』2 早稲田大学 pp.17-26
- 梁 燕碧(2009)「日本語学習におけるインターネット利用の現状調査—広州の日本語専攻大学生を対象として—」『グローバル化社会の日本語教育と日本文化日本語教育スタンダードと多文化共生リテラシー』萬美保・村上史展編 ひつじ書房
- 和田玉己(2003)「学習者のリソース利用—アンケート調査からみえること—」『九州大学留学生センター紀要』13 pp.23-41
- Benson,Philip(2001)Teaching and Researching Autonomy in Language Learning .Pearson Longman
- Oxford,R.L.(1990)Language Learning Strategies:what every teacher should know. NewYork: Newbury House.( 宍戸通庸・伴紀子(訳)(1994)『言語学習ストラテジー—外国語教師が知っておかなければならないこと』 凡人社)